

第 213 回友の会 瀬田公園

～早春の草花を愛でる～

日 時 2月19日(日)

場 所 大津市瀬田公園

天 候 雨

参加者 一般10名 スタッフ14名 合計24名



生憎の雨。朝起きて窓を開けると濃いキリに包まれていた。集合場所の JR 瀬田駅ではスタッフ全員が雨具着用で受付準備。何人来るか心配でしたが10名の参加。ありがとうございます。

下見との変更判断は早々に行い、この日はバス移動後に半日の観察会となりました。瀬田公園入口付近でリーダーからの観察会内容の説明を聞いて足元の悪い中で開始です。

池の周りでは、常緑樹のマテバシイ、ヤマモモ、クロバイの他にクスノキを見つけ、常緑樹といっても葉を落とす時期の説明やダニ部屋の話(サンゴジュにもダニ部屋あるよなども)を紹介。2月の観察会ではやはり「冬芽」観察が楽しいので、初めに目についたヤマウルシを紹介、その後アジサイやドウダンツツジにカラスザンショウ、リョウブなどをその都度紹介。

上の池での木道は雨で滑りやすく慎重に足元の水面をのぞくと、ニホンアカガエル(北方系で寒さに強い)の卵塊が水を吸ってふわふわと浮いていて、ここでの繁殖を確認。先に進むとキツネの住む森エリアに入るのので少人数のグループに分かれて進み、スタッフからの小声での説明を聞いてもらいました。

キツネエリアを過ぎた辺りから赤い実が目立つハナミョウガ(京都府準絶滅危惧種)と、群生したセリバオウレンの小さな白い花が足元を覆っていました。参加者の人はルーペを持ってしゃがみ込みこれは両性花ですね?これが雄しべですか?など、足元の悪い中でも観察を楽しめたと思います。この後、雨で店開きは中止でしたが「ハナミョウガ」と「セリバオウレン」について、自作の絵を使っでの説明があり好評でした。

この後は古琵琶湖層が露出した地層を見ながら元の場所へ降りていきました。雨で予定コースより短く変更し、半日での観察会になりましたが主な見どころは見られたと思います。

他、ユリノキ、フユノハナワラビ、メタセコイア(樹形/対生)、ネズミサシ(香り)、タカノツメ(短



枝)、ヤマコウバシ (残った葉)、イヌツゲ (互生/モチノキ科)、エゴノキ (主芽と副芽)、ハンノキ (沼地、雄花序と果実)、ソヨゴ (葉縁が波状)、コ克蘭、ホオノキ (特大の落葉)、クチナシ (熟した果実)、クリ (冬芽がクリ) リョウブ (冬芽がナポレオンハット)、ネジキ (1 年枝が赤い塗り箸)、コナラの枝に付いたタマキクラゲ、 等々。

瀬田公園は盛り沢山な自然が観察できる貴重な場所です。多くの方が見守っていますので今後も維持できるように努めましょう。
(文責 古結)



セリバオウレン



ヒイラギナンテン



ヤマコウバシ



ヤグラゴケ



クチナシの実



雨の中でも熱心に